

ETロボコン2013 アーキテクト部門審査規約

ETロボコン2013
本部審査委員会



目次



1. 新部門設立の背景
2. 審査方針 & 審査項目
3. 審査基準
4. 総合評価
5. 企画書の構成

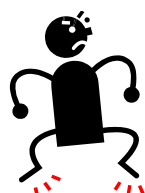
1. 新部門設立の背景

ETロボコンが対象としていた “組み込み開発者に求められる素養”

高品質な製品開発能力

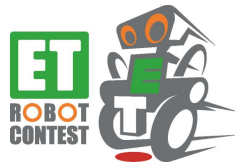
与えられた課題 に対して

高品質な設計 に基づき 高品質な製品 を開発



はたして高品質な製品開発だけで
今後の組み込み業界はやっていけるのか？

1. 新部門設立の背景



■ 部門の定義、想定する対象者

高品質な製品開発能力

高品質な設計に基づき
高品質な製品を開発できる能力

⇒ デベロッパー部門

これまでのETロボコンで
対象としてきた素養
(組み込みシステム開発、学習の入門
および初級者を対象)

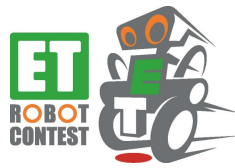
新たに追加した素養
(デベロッパー部門の卒業者
や組み込みシステム開発の中
級者を対象)

すごい！と思わせる製品企画力

人々に“すごい！”と思わせる製品を考え、
動くものとして作り上げられる能力

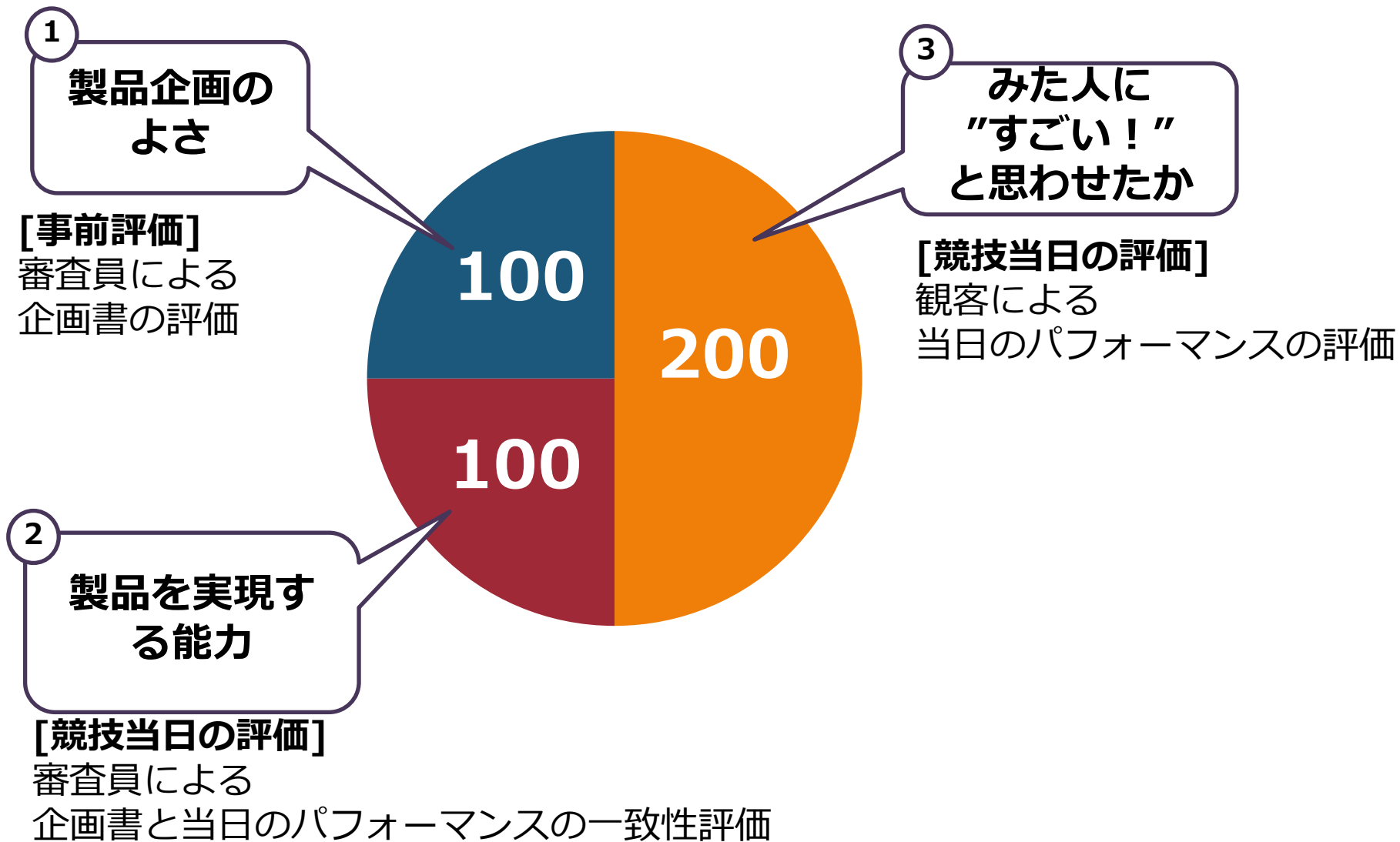
⇒ アーキテクト部門

アーキテクト部門のありそうな誤解



- アーキテクトってなに？
 - 本部門におけるアーキテクトとは、“すごい!製品”を企画し実現する能力を持つ人となります
 - ソフトウェアアーキテクチャを競うわけではありません
 - 多くのソフトウェア開発者が抱く“アーキテクト”の定義とはずれるかもしれませんが、今年はこの名前でいきます
- 提出物にはモデルを書くの？
 - アーキテクト部門の提出物は“企画書”です
 - “企画書”には、テーマやパフォーマンスの内容を説明する“パフォーマンスプラン”と、パフォーマンスの実現方法を記述した“モデル図”を書いて下さい
 - 評価は“パフォーマンスプラン”に重きをおきます
 - “パフォーマンスプラン”の記述方法は自由でかまいません
- 初参加なのですがアーキテクト部門に参加したい
 - アーキテクト部門にはモデルに基づく開発能力を備えた人が参加することを期待します
 - 初参加の方はまずはデベロッパー部門に参加することをお勧めします

2. 審査方針 & 審査項目



3. 審査基準



■ “1. 製品企画のよさ”

- 提出された企画書を以下の観点から評価します
 - パフォーマンスプランのよさ
 - Why/Whatの評価
 - モデル図のよさ
 - Howの評価 (機能実現を中心に評価)
 - わかりやすく書かれているか
- HowよりはWhy/Whatを重点的に評価します
 - アーキテクト部門は“Howを記述する能力が既にある人”を前提にしています
- 競技規約に違反するパフォーマンス内容が書かれていた場合は減点することがあります

3. 審査基準



■ “2.製品を実現する能力”

- “企画書で宣言されたパフォーマンスが**達成できたか**”を評価
 - 審査員が当日のパフォーマンスを目で見て評価
 - 企画書内に書かれているパフォーマンス達成基準に基づき判定
 - パフォーマンス内容や達成基準が企画書内から読み取れなければ0点として評価
 - 審判が開始を指示してから終了を指示するまでの間が審査対象時間となります
 - 審査対象時間は、キャリブレーション・設営、走行・パフォーマンス、撤収までを含みます
 - “予定されたパフォーマンスを達成できたか”のみ評価
 - パフォーマンスが“すごい!”かどうかは3で判断するためここでは評価しない

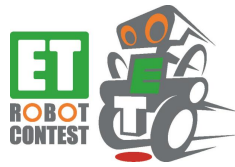
3. 審査基準



■ “3.みた人にすごい！と思わせたか”

- 一般審査員と特別審査員が当日のパフォーマンスをみて、“すごい！”と思ったかを評価
 - 一般審査委員、特別審査委員の定義は競技規約を参照

4. 総合評価



- 1+2+3-(減点分)を400点満点で評価し、入賞チームを決定
- デベロッパー部門と違い、モデリング・走行別の表彰はなく、総合の表彰のみ
 - ただし、別途特別賞はあり

5：企画書の構成



■ 様式自由、分量自由

- 審査員が内容を確認する時間も限られていますので多すぎてよいことはいけません
- 大会会場での掲示は5枚のみに限定されます
 - 企画書もしくはコンセプトシート内に、掲示するページと順序について記述してください

■ テーマ・パフォーマンスとその実現方法を明記すること

- パフォーマンスプラン (Why/What)
 - **テーマ**
 - 今年は各チームで自由にテーマ設定してください
 - そのパフォーマンスを企画した背景・目的
 - **パフォーマンス内容**
 - どんなガジェットを使って、どのようなパフォーマンスを行うのか
 - ※パフォーマンス内容は競技規約に準拠すること
 - **パフォーマンス達成の確認ポイント**
 - 当日に審査員が目でみて確認できる、システムが行うパフォーマンスの達成基準を明記すること
- モデル図 (How)
 - そのパフォーマンスを実現するためのシステム、ソフトウェアについての記述
 - アーキテクチャの概要がわかればよい